

令和5年度シラバス（家庭）

学番 44 新潟県央工業高等学校

教科（科目）	単位数	学年	学科・コース	授業形態
（家庭）家庭総合	2単位	1学年	工業科	一斉授業
使用教科書・副教材等	『家庭総合』で生活をつくろう（大修館書店） LIFEおとなガイド（教育図書）			

1 学習の到達目標

<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭、衣食住、消費や環境など生活を主体的に営むために科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的に身に付けるようにする。</p> <p>(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 様々な人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。</p>
--

2 科目の特色・指導の重点

<p>生活の科学的な理解を深め、生活の自立に向けて主体的に活用できる技能の習得を図るために、実践的・体験的な学習活動を重視し、問題解決的な学習を充実させる。</p>
--

3 評価の観点と評価方法

観点	評価基準	評価方法
① 知識 技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	学習プリント 実習課題 学習・実習態度 定期考査
② 思考 判断 表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	学習プリント 実習課題 学習・実習態度 定期考査
③ 主体的に 学習に取り組 む態度	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	実習課題 レポート 学習・実習態度

4 学習の計画（①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度）

学期	学習項目	時数	学習内容(ねらい)・評価の観点	①	②	③	評価方法
1 学 期	第1章 生活のマネジ メント	1	・個人の発達段階の特徴と発達課題を知る。	○		○	学習プリント
		3	・生活を支える資源にはどのようなものがあるかを理解し、自己実現のためにそれらを活用することについて考える。	○		○	実習課題 レポート
		2	・さまざまなライフスタイルがあることを知り、自分の将来のライフスタイルを具体的にイメージする。	○	○	○	学習・実習態度 定期考査 レポートの作成
	第2章 青年期の課題と 自立	2	・自分の生活と自分自身について自己理解を深める。	○	○	○	発表
		2	・青年期の発達課題を達成するための生きかたを考える。	○	○	○	
		3	・自立と同時に、多様な価値観や生き方を認めて他者と共生する「共生社会」と「持続可能な社会」の実現をめざすことも青年期の課題であることを理解する。	○	○	○	

	第3章 家族・家庭生活のマネジメント	3	・家庭が家族個人に果たしている機能と社会に果たしている機能を理解する。	○	○	○	
		2	・家族・家庭に関する法律を理解し、制度としての家族について考える。	○	○	○	
		2	・私たちの社会は、多様な生き方、多様な価値観で成り立つ社会であることを理解する。	○	○	○	
	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ	1	・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。	○	○	○	
			・生活をあらためて見直し、解決することを検討する。	○	○	○	
			・具体的な解決方法を探り、実際に改善する。	○	○	○	
			※ホームプロジェクトは夏休み中に実施する				
2 学 期	第8章 経済生活のマネジメント	1	・経済的自立について理解する。	○	○	○	学習プリント 実習課題 レポート 学習・実習態度 定期考査
		2	・毎日の生活を営むために必要な費用を知る。	○	○	○	
		2	・人生を見通した経済計画を立てる必要性と方法を知る。	○	○	○	
		2	・消費にかかわる契約について理解する。	○	○	○	
		3	・商品の購入方法、支払い方法の種類と特徴を知る。	○	○		
		3	・消費者信用について理解する。	○	○		
		2	・問題解決法の現状を知り、なぜ被害が起こるのかを考える。	○	○	○	
		2	・消費には企業や社会を動かす力があることを理解し、その力を有意義に使う思考と行動力を身につける。	○	○	○	
	第10章 衣生活のマネジメント	1	・人間と被服の関係を被服の歴史から確認する。	○	○	○	
		1	・被服の機能について知り、T.P.O.に応じて自分も他人も快適になる被服の着用ができるようにする。	○	○	○	
			・被服着用による健康障害や事故について知識を深め、トラブルの処理のしかたを理解する。	○	○		
		1	・災害時に備えて被服を準備できるようにする。	○	○		
		2	・被服の手入れ方法を知る。	○	○	○	
		2	・衣生活における資源や環境問題を考え、配慮する姿勢をもつ。	○	○	○	
		8	・被服を手づくりすることの楽しさや意義を考える。	○	○	○	
3 学 期	第5章 高齢期の生活のマネジメント	2	・高齢者の心身の特徴を知り、高齢期の生活を充実させるための個人的・社会的方策を考える。	○	○	○	学習プリント 実習課題 レポート 学習・実習態度 定期考査
		2	・高齢者の自立を支援するための社会保障、社会福祉制度について知る。	○	○	○	
		2	・高齢者が住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせるようにするために、家族や地域が果たす役割について考える。	○	○	○	
	第6章 共生社会をつくる	2	・生活リスクについて理解し、人生におけるリスク管理の必要性を理解する。	○	○	○	
		3	・自分の生活に問題が生じたとき、どう解決するか具体的に考える。	○	○	○	
		2	・社会保障制度の概要について理解する。	○	○	○	
		2	・社会保障制度を支える、税金やマンパワーについて理解する。	○	○	○	
		2	・共生社会の理念について理解する。	○	○	○	

計 70 時間(50 分授業)

5 その他(担当者からの一言・留意点など)

家庭科という教科の目標は、健康で、安全に、快適な毎日を過ごすために必要な知識や技術を身に付け、それを実際に役立てることでより心地よい生活を創り出すことにあります。また、私たちは家族や友人、地域の人々、ひいては世界の人々と様々な形でつながっています。周囲の人や環境にも配慮し、ともに生きる意識や態度を身に付けていきましょう。家庭科は、実習教科でもあります。学習の評価においては、筆記テストはもちろんです。特に出席や学習・実習態度、提出物を重視しますので、やらなければならないことを、しっかりと実行していきましょう。

令和5年度シラバス（家庭）

学番 44 新潟県中央工業高等学校

教科（科目）	単位数	学年	学科・コース	授業形態
（家庭）家庭総合	2単位	2学年	機械加工科・電子機械科・情報電子科・建設工学科	一斉授業
使用教科書・副教材等	『家庭総合』で生活をつくろう（大修館書店） LIFEおとなガイド（教育図書）ビジュアルクッキング（教育図書）			

1 学習の到達目標

<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭、衣食住、消費や環境など生活を主体的に営むために科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的に身に付けるようにする。</p> <p>(2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。</p> <p>(3)様々な人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。</p>

2 科目の特色・指導の重点

<p>生活の科学的な理解を深め、生活の自立に向けて主体的に活用できる技能の習得を図るために、実践的・体験的な学習活動を重視し、問題解決的な学習を充実させる。</p>
--

3 評価の観点と評価方法

観点	評価基準	評価方法
① 知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	学習プリント 実習課題 学習・実習態度 定期考査
② 思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	学習プリント 実習課題 学習・実習態度 定期考査
③ 主体的に 学習に取り組む 態度	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	実習課題 レポート 学習・実習態度

4 学習の計画（①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度）

学期	学習項目	時数	学習内容(ねらい)・評価の観点	①	②	③	評価方法
1 学 期	第9章 食生活のマネジ メント	1	・食事の持つ意味を知る。	○		○	学習プリント
		2	・現在の食生活の現状を理解し、どのようにすればより健康的な食生活が送れるのか考える。	○	○	○	実習課題
		1	・日本の食文化の成り立ちを知る。	○	○	○	レポート
		1	・世界のさまざまな食文化について理解し、日本の食文化を世界に発信していくことを通した国際理解について考える。	○	○	○	学習・実習態度
		2	・食事と食品と栄養素の関係について理解する。	○	○	○	定期考査
		4	・炭水化物、脂質の働きとそれを多く含む食品の利用方法を考える。	○	○	○	レポートの作成
		2	・食品を安全に取り扱い、食中毒を防ぐ方法を理解する。	○	○	○	発表

		8	調理実習 ・調理を効率的に行うための調理器具の利用の仕方、安全への配慮に目を向ける。 ・調理を科学的に理解する態度を養う。 ・計画にしたがって調理し、食卓に出しておいしく食べられるようにする。	○	○	○	
		1	・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 ・生活をあらためて見直し、解決することを検討する。 ・具体的な解決方法を探り、実際に改善する。 ※ホームプロジェクトは夏休み中に実施する	○	○	○	
2 学期	第7章 持続可能な社会をつくる	6	・たんぱく質、無機質、ビタミンの働きとそれを多く含む食品の利用方法を考える。	○	○	○	学習プリント 実習課題
		1	・食事摂取基準、食品群の種類を理解し、生活のなかでの活用方法を理解する。	○	○	○	レポート 学習・実習態度
		16	調理実習	○	○	○	定期考査
		1	・調味料、香辛料の特徴と嗜好品の利用目的を知る。	○	○	○	
		1	・食品を選択するときには判断すべき情報について、表示等と組み合わせて理解する。	○	○	○	
		1	・食品の流通経路を知り、食品を鑑別し購入できる能力を養う。	○	○	○	
		1	・日本および世界の食環境問題について理解し、自分自身の問題としてとらえる姿勢を身に付ける。	○	○	○	
		2	・SDGSについて理解し、一人ひとりの行動変容が大きな解決の力となることを理解する。	○	○	○	
		2	・購入の意思決定が生産に影響を及ぼしうることを理解させ、市場で提供される商品が環境へ及ぼす影響を考えようとする力を養う。	○	○	○	
		2	・持続可能な社会を実現するために必要な法律や制度について理解する。	○	○	○	
3 学期	第4章 子どもの生活と子育てのマネジメント	2	・子どもの時期は人としての土台をつくる重要な時期であることを理解する。	○	○	○	学習プリント 実習課題
		1	・母体の健康管理と、父親になる男性や周囲の人が配慮すべきことを理解し、実行できるようにする。	○	○	○	レポート 学習・実習態度
		2	・新生児期、乳児期、幼児期の子どもの体と心の成長・発達をこまかく知るとともに、発達とはそれらの総合的なものであることを理解する。	○	○	○	定期考査
		2	・生活習慣を身に付けることの重要性を知り、家族の果たす役割を理解する。	○	○	○	
		1	・遊びの意義を理解し、児童文化に興味を持つ。	○	○	○	
		2	・子どもの健康と安全について、基本的な理解を得る。	○	○	○	
		2	・子どもの人格形成のために必要な親の役割と責任を学ぶ。	○	○	○	
		2	・世界や日本の子どもを取り巻く状況を知り、その解決方法を考える。	○	○	○	

計 70 時間(50 分授業)

5 その他(担当者からの一言・留意点など)

家庭科という教科の目標は、健康で、安全に、快適な毎日を過ごすために必要な知識や技術を身に付け、それを実際に役立てることでより心地よい生活を創り出すことにあります。また、私たちは家族や友人、地域の人々、ひいては世界の人々と様々な形につながっています。周囲の人や環境にも配慮し、ともに生きる意識や態度を身に付けていきましょう。家庭科は、実習教科でもあります。学習の評価においては、筆記テストはもちろんです。特に出席や学習・実習態度、提出物を重視しますので、やらなければならないことを、しっかりと実行していきましょう。